

感染症対策・



調査センター



2025(令和7)年11月1日

第 14 号

編集
発行

名古屋市保健所
感染症対策・調査センター

〒463-8585

名古屋市守山区桜坂四丁目207番地

電話 737-3712 FAX 736-1102

Mail a7373711-07@kenkofukushi.city.nagoya.lg.jp



ホームページ



X(旧Twitter)



YouTube

マダニ

当センターでは市内におけるマダニの生息状況を把握するため、調査をおこなっています。毎年8種類ほど捕獲されていますが、今回は市内では捕獲数の少ない珍しい種をご紹介します。



“美しい”マダニ！？



生物の名前は外見に由来するものがありますが、マダニも例外ではありません。写真のマダニはベルルスカクマダニ♂です。市内では令和4年度に初めて捕獲され、今年度までに3匹捕獲できました。学名では“*Dermacentor bellulus*”と表記します。学名とは世界共通の名称です。

“*Dermacentor*”はカクマダニ属を表します。“*bellulus*”はラテン語で“美しい”という意味があります。♂の背中全体(背板)の象牙色の美しい色彩に由来します。マダニは感染症を媒介する危険な生物ですが、外見上の特徴からユニークな名称を持つものもいます。

ベルルスカクマダニの動画はこちら→



左：タカサゴキラマダニ♂

右：ベルルスカクマダニ♂



ベルルスカクマダニは国内最大種のタカサゴキラマダニ(約10mm)に匹敵する大型種です。共にイノシシなどの大型動物に見られます。市内でベルルスカクマダニが捕獲されるようになったのは、イノシシの生息域の拡大が関係しているのかもしれません。

タカサゴキラマダニの動画はこちら→



ベルルスカクマダニ♀

令和4年度に初めて捕獲されたのは♀でした。♂と異なり、象牙色の背板の面積が狭いです。



ベルルスカクマダニ幼虫

成虫と異なり脚は6本です。幼虫はネズミなどの小型動物に見られます。



コガタスズメバチの越冬



越冬するのはいつ？

暑い夏が終わりを迎える頃、オスバチと新女王バチの幼虫が育てられ始めます。名古屋の市街地でよく見かけられるコガタスズメバチの場合、9～11月頃にかけてオスバチや新女王バチが羽化してきます。オスバチと新女王バチは交尾を行った後、元の巣に帰ることはありません。新女王バチは交尾を済ませるとそのまま越冬場所に向かいます。



どこで越冬するの？

新女王バチたちが目指す越冬場所は、雑木林の倒木や朽木の中です。丈夫なアゴで柔らかくなった倒木などを削り、越冬室を作ります。



(R5.2.6撮影)

右) 美しい卵型の越冬室。
内側はとても滑らかに削られています。



(R5.3.3撮影)

左) 本来は一頭ずつ越冬しますが、条件の良い場所が少ないと何頭もの新女王バチと一緒に冬を越すこともあります。

全ての新女王バチが無事に冬を越せるわけではありません。体にカビが生えて死んでしまうもの、他の昆虫などに食べられてしまうものもあります。半年間、厳しい冬を乗り越えた新女王バチは、5月頃から一頭で巣作りを始めます。



センターからのお知らせ



薬剤散布訓練を実施しました！



令和8年に開催される愛知・名古屋でアジア・アジアパラ競技大会では、大会関係者を含む多くの方の来日が見込まれます。デング熱等の蚊が媒介する感染症の発生に備え、感染症対策の一環として、蚊の駆除を目的とする薬剤散布訓練を実施しました。

[R7.10.14 瑞穂公園]



車載式の動力噴霧器



疑似薬品(水)を散布

『感染症対策・調査センターだより』は、名古屋市公式ウェブサイトで創刊号からご覧いただけます。
「感染症対策・調査センター」で検索していただくか、右のQRコードをご利用ください。

